

毎月一回十五日發行(定價一部五錢一年郵稅共五十錢)



二 主 田 須 兼 編 輯
市 田 上 縣 野 長 所 行 發
校 學 門 專 絲 蠶 上 千
會 町 縣 南 市 野 長 所 刊 印
社 會 式 株 關 新 日 每 邊 信

滿洲纖維業概見

(二)

野口新太郎

△綿紡織業

滿洲は三千万の人口を抱擁してありますが、まだ文化が低いため國民は殆んど皆綿服を纏ふてゐるのであります。従つて綿絲布の需要は極めて廣く古來之が紡織の業も随分旺盛なものであります。然しそれは全く幼稚な手工業でありまして、近代工業としての機械紡織業は極めて微々たるものであります。即ち現在滿洲に於ける機械紡織工場は、邦人經營の内外綿(金州)、福紡(周水子)、滿紡(遼陽)及滿洲國人經營の奉天紡紗廠(奉天)の四社、此總數數十萬も數へるのみであります。而も此の四社さへも從來必しもその業績良好とは申されぬ状態であつたのであります。

基礎確定によつて舊軍閥の壓迫乃至不當課税等の障害は排除される事ではありませうし、尙一方年々増産されるであらう滿洲棉の利用も出来る事でせうし、且又勞銀の低廉需要旺盛等の好條件も揃てゝ加へて將來漸次發達するものと信じます。

△毛織業

本國原産の羊毛を原料とする極めて有望な工業であります。從來の羊毛は毛布カーペット類の原料として大部分原毛のまま米國を始めとする諸外國へ輸出されてゐる有様でありまして滿洲に於ては殆んど毛織工業に見るべきものなく、唯一つ奉天の滿蒙毛織會社を持つのみであります。同社は世界大戰當時英國の滿洲羊毛管理令に刺戟され、尙一方日本の羊毛政策に順應せんため關東廳、滿鐵會社助成の下に設立されたものであります。現在羊毛、駱駝毛等を原料とし、羅紗毛布、毛絲等を製造して居ります。

△製麻業

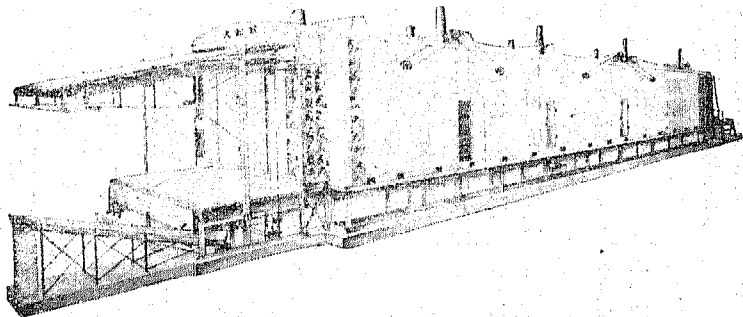
滿洲には無限に近い農産物と、豊

富な天然資源がありまして、近年交通の發達や資源開發の進歩に伴れ、之が運搬、包装用麻袋の需要は夥しいものであります。又一方滿洲は氣候風土麻の栽培に適し、古來その産地でもあります。即ち奉天、吉林二省の東方山地帯から遼陽、營口、錦州等の各縣を主産地としまして廣く全滿に亘つて栽培されてゐるのであります。従つて製麻事業は随分旺盛でありまして麻袋、帆布、細引、麻綱等の製造各地に行はれ滿洲で生産される麻の殆んど全部は此の地方消費に充てられてゐる状態であります。然し之は小規模な家庭的手工業によるものであります。近代工業的工場組織による製麻業に至つては眞に貧弱なもので僅かに大連の滿洲製麻と奉天の奉天製麻の二會社あるのみであります。而も奉天製麻は去る昭和五年以來業績不振のため休業中の有様でさへあります。斯様に滿洲の製麻業の現状はその國內の大需要に較べて眞に微力なもので、年々印度を初めとし日本その他より大量の輸入を仰いでゐる有様であります。

將來滿洲産業の開發につれ麻の需要は更に加速度的に増加する事でありませうから、滿洲に於ける製麻及

山本三六郎著
化學純綳絲の工業的完成
伊太利蠶絲絹業の衰退原因と其の現況
蠶絲業法規要論
菅原一治著
改正
市田上縣野長
會究研學科絲蠶 所行發
(振替長野6413番)

現代乾繭機界ノ王座 大和式自動輸送乾繭機



1933年代表型

【現録贈呈】

繭栽培業の發達を圖るは必須の事業と信じます。

△養繭

滿洲の地味、氣候は桑の生育に適し、空氣が乾燥するため家蠶の飼育管理は極めて容易であります。又一般に害虫が少なく蠶は強健に發育し勞銀が低廉であるから、繭の生産費は内地に比し凡そ半額で足りるのであります。

桑の生育状態から見て養蠶回数は奉天以北が夏一回秋二回奉天以南で春一回夏一回秋二回は可能であります。

營業課目

特許大和式自動輸送乾燥機
特許帶川三光式乾燥裝置
特許願やまヤホイロ機
特許大和式熱湯自動還元機
特許水野式改良ロストル
特許アイエム・コールセーダー
特許アイエム・ストーカー

製作發賣元

株式會社

大和三光商會

東京京橋區京橋三丁目二番地
電話京橋(56)五三二〇番

△總括

以上私は私が今夏の旅行で視た滿洲紡織關係業の大略であります。今終りに之を總括致しましてその展望を申し述べますと、滿洲の紡織關係諸業は今漸く發達の緒につかんとする所でありまして、何れも將來發達の

要素は、多分に持つて居るのであります。養蠶等々隆盛に赴くものと想ひます。而して工業方面に於きましては國內の文化が相當充實して後物興すべく此方面の發達は此處數年或は十年を待つて後徐々に發動するものと想像されるのであります。而して此の方面の開發につきましては内地産業との關係を顧慮し日滿共榮の大方針に従つて進められるべきものであります。

まして即ち柞蠶、羊毛、綿花、麻、養蠶等々隆盛に赴くものと想ひます。而して工業方面に於きましては國內の文化が相當充實して後物興すべく此方面の發達は此處數年或は十年を待つて後徐々に發動するものと想像されるのであります。而して此の方面の開發につきましては内地産業との關係を顧慮し日滿共榮の大方針に従つて進められるべきものであります。

スキー指導者講習會の模様

宮坂 收

一月四日より約十日間菅平の雪原に文部省主催のスキー指導者講習會に學校より出席せしめられた。昨年は同窓からはスキー界の寵兒であり達人である六川忠一朗兄が出席されて講師はだしの腕前を振ひ最優秀の成績を得られた、同窓生諸兄にして千草の咲き亂れる一望千里の草原菅平に又白銀の大原野菅平を御訪問の方は既に御承知の事と思はるゝが文部省が牧場の一隅に二万坪の地域を劃して中央部に三万圓余の大建築をなし此處に文部省高原体育研究所を開設したのであるが本所の開所式は一月の三日に行はれた、本年のスキー講習會は此處に合宿をなし全國よりスキーの天狗連六拾余名が集り四日の正午に愈、第三回スキー指導者講習會が開かるゝに至つたのである。北は北海道の北端より南は九州の南端迄集まれるもの六拾余名何れも顔色の淺黒き連中ばかり一堂に會せる有様は實に物凄き極みであつた。

四日の晝食後開會式が行はれた會長文部省体育課の醫學博士岩原拓氏の開會の挨拶あり次で各講師の挨拶ありて此處に講習會が成立したのであるが講師は次の五氏であつた。大谷武一氏 中川新氏 馬場忠三郎氏 麻生武治氏 出口村次郎氏 席上會長及講師より指導者講習會開催の主旨及び我國スキー術發達の現況及種々なる注意あり。午後は種々なる準備都合のために自由練習をする事になつた、一日の練習行程は決定され嚴守されたから御参考までに記しておく。

三十分迄スキー體操及び映畫によるスキーテクニクの指導があり、午後十時に就寢であるが夜間の種々なる指導講義は日中の疲勞のために大抵は半眠りの有様である。スキー講義はスキーの選擇法、スキー服裝に就いて、スキーテクニクの合理的指導方法、スキーワックスの使用法の梗概、スキーの衛生に就いての講義等である。實地指導練習に就ては前期三日間と後期三日間に別れておる、前期三日間はスキーテクニクの初等中等高等の一通りのスキーテクニクの指導である、スキー術の初等課目は平地行進法、登行法、全制動、直滑降等にして一日を之に費すのである、中等課目は、斜滑降、シユテムクリスチヤニア、シユテムボーゲン、シエレンクリスチヤニアステツプダウン、スケーテング等の課目に一日を費すのである最後の高等課目はジャンプターン、LST、デレンデシユプリンゲン、ジャンプテクニクの指導及びレーススキーにて一日を費すのであるがかくして一般のスキー技術の指導が済むと一日審査ありて技術の優劣によりて初等者、中等者、高等者と班別されたのであつたが審査の結果赤尾氏と小生は遺憾ながら中等班となつた。技術の未熟から何うも仕方がない。以後三日間はやはり前述の初中等の各課目を反覆練習して最後に一日を費して成績審査である。その外毎日講師先生は閣下帳に成績をつけられるので毎日スキーの試験の様でスキーの講習に來たのか試験されに來たのか見當がつかねた。最後の審査により最優良者十八名に優良賞が

受與され此に第三回スキー指導者講習會が終了したのであるが兎に角十日間余りも雪原の眞唯中に閉籠められてしまつたので最後には幾分ホムシツクの感であつた、併し菅平高原の朝な夕な雄大な風物のみが我等を慰めてくれた。スキー練習にへとく疲れくつておつても彌固や四阿の峰をかすめる夕日の色調の美しさ神々しさを眺める時は疲勞も全く忘れ思はず自然の美しさに喝采を叫んだものだつた、顔の色調も人並に煤色にはなつた。そして如何にもスキーが巧まそうにも見られるがテールスキーならば何んとか御相手も出来やうが雪上スキーは不確實此上なしである。同窓生諸兄にして若し菅平にスキーを試みられんとされるならば菅平への御案内だけは致しますが、それから後は御勘辨を願ひたいと思ひます。(終)

第七回代議員會記事 (二)

一、出席代議員ニ旅費支給ノ件

(北九州千曲會)

從來は片道の汽車賃(三等賃)を本會より支出しあり今後は支會交付金の二割を二割以内となし其の差額中より往復汽車賃を支出のことに可決

一、學生ノ爲メ自由講座ヲ設ケ之レガ費用ハ積立金ヨリ支出ノ件

(東京千曲會)

現在の社會狀態に添ふべく學生のため課外講座を設くる様學校當局へ依頼すること而て之に要する經費は學校を主体とし若し不足を生じたる場合には本會に於て支出する程度に併せ依頼することに可決せり

一、養蠶製絲紡績各科連絡機關設置ニ關スル件

(山形千曲會)

新に聯絡機關等の設置をせず從來の如く各支會に於て御互の聯絡を計ること

一、蠶絲學雜誌ノ經營ニ關シ考慮スル件

(東京千曲會)

一、千曲時報發行回數増加ノ件

(北九州千曲會)

一、蠶絲學雜誌並ニ千曲時報編輯方針轉換ニ關スル件



(熊本千曲會)

右三件は相關聯せるが故に一括議題となす本件に關しては種々なる意見ありたるも結局「蠶絲學雜誌並に千曲時報の發刊は従前通りとなし之れが經費、編輯、及經營上に關しては當局者に於て相當研究を爲すことに可決せり

一、昭和九年度本會歳入出豫算ニ關スル件

(本會)

林理事より前年度豫算と對照し其の増減を詳細に亘り説明あり次で人件費及印刷費等の少額見積に付意見ありたるも理事者より收支の均衡上致方なき旨答辭あり質疑應答の結果會議費及交附金の一部

重より資金は利殖を目的とせざる確實第一主義を以て保管せられたき旨希望あり之れに對し理事者より現在 は管理規程に基き保管し居るも尙將來は御希望に反せざる様萬全を期する旨答辯あり最後に監事の監査報告に基き全會一致を以て決算報告は承認せらる

上田蠶絲專門學校內

三、會議費	四、事業費	五、其他收入										
代議員會費	役員會費	雜誌補助費	印刷費	編印費	送印費	雜送費	講師費	研究會費	各補助費	調查費	補助費	豫交補助金
未納會費整理費	旅費補助	雜誌補助費	印刷費	編印費	送印費	雜送費	講師費	研究會費	各補助費	調查費	補助費	豫交補助金
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1	

千曲會	項	收	入	金	額
員納入高	目				
六二〇人	補助			五〇〇、〇〇	
八割ト	金			四六、〇〇	
雜誌	見テ一人一圓宛			一五〇、〇〇	
寶上代	金				
學校一圓九〇部宛	三圓ニテ				
三〇部					
學生平均二五部	三圓ニテ				
合計				一、一五八、〇〇	

雜誌	項	支	出	金	額
印刷	目				
印刷	費			七五〇、〇〇	
品	費			四五〇、〇〇	
	費			八四〇、〇〇	
	費			三〇〇、〇〇	
	費			二〇〇、〇〇	
	費			七五、〇〇	
合計				一、一五八、〇〇	

三木峰

毎年、年賀廣告の時期になると、千葉の II T 君からの投稿が載る。「収入が目的ならばまた何をか言はんや」といつたやうなことで、自分も往年その太刀風の下を潜つたのを思ひ出す。

乃で、別にそれと關係はないが思ひ出したままに試みに自分の受けた年賀狀の糊おろしをして見やう。

先づ自分は今浪人をしてゐるから受け

た年賀狀の數は一昨年より、また昨年より減つてきてゐるのは世の常だらう。で僅かな數の中ではあるが或る一つの傾向も見えて面白いかとも思ふ。今年受けた年賀狀は、めて三・一四通、その内譯をして見ると次の通りになる。

千曲會員 一三二
織維業者 一四六
雜 三六

これを更に種々分類して見ると

(官製葉書) 一七〇 五四、一四％
(私製葉書) 一四四 四五、八六％
(封書を含む)

(封筒入) 一〇——三、一六％
(單葉) 二五四

謹賀新年(又は之と類似のもの)のみ
二二四

外に文句を書いたもの
九〇——二八、六六％

(印刷したもの) 二五三
(自署したもの) 六一——一九、四二％

これを見ると謹賀新年(又は之と類似句)を印刷した葉書が大部を占めてゐて、私製葉書よりは官製葉書の方が稍多かつた。

かく分類して終へばそれ迄であるが、扱これを一枚一枚拾つて見るとそこに各々その人の個性が表はれてゐて非常に面白い。然し茲にそれを一々記すわけにはゆかないが、その文句、字の配列、宛名の書き方など種々な角度からこれを眺めてゆくと非常に興趣が湧く。所謂お正月の樂しみとしてカルタ、麻雀なんかの比でない。友あり遠方より而も年に一度のものもあれば數年昔僧のなかつたものなどもたまには一枚位發見されるのだ。

話を戻して今年の年賀狀から現實に二、三のものを拾つて見やう。先づ眼についたのが非常時日本を言外に現はして眞赤な日の丸を掲げたもの、これが五枚あつた。

そうかと思へば英語で書いたやつが一枚、またカナモジで書いたのが二枚ある。カナモジのは何れも會社の重役でカナモジ會員。次に今年は特に皇子御降誕を祝福したものが目立つ。中でもS T君の「萬民歡呼、瑞祥の新春を祝し奉り候」といふのは氣の利いた賀詞である。同じく和歌がある。自分は歌は作れないからその巧拙は知らないがC U君の「うちの皇子世の東なる日の本に朝日子とともに登りましけり」の外四人七

首あつた。

TK君は例によつて漢詩曰く「満天風雨亂。楓林葉々飛。……獨有松與柏。森々長依々。……」。……幽趣似端緒。心事亦何遠。「青島寶來紗廠のJN君からは泰山の中腹、經石峪に刻された金剛經三千字の中から「人壽百歳、蘭香四時」の八字を縮録して來た。中華民國から來たものは例の眞赤な賀狀、これが三枚。その他地方的に見て米國から二枚、滿洲から四枚、南洋から一枚、台灣から一枚、が遠いところ。

最も近いところでは約六丁離れた同一市内、これなどはポストへ入れ又は更に局へ行くよりは本人が持つて來た方が近い。一体同じ町内に住んでゐるものが眼下の者へならイヤ知らず葉書で年賀なんて何の意味もない。それから話は外れるが年賀に行つて玄關先へ名刺受を出したまゝで誰も出ないのは氣持のよくないものだ。東京にはよくある、それでも書生位は出て應對する。況して蔭の話をハタと止んで後は空家のやうな状態はどうかと思ふ。

賀狀に書き添へた文句に「正何位に叙せられ」なんてあるのは誠にお芽出度い。東京府會議員のTS君からは毎年六號カルビでベツタリ字を填めて寄越すが、今年も「名譽ある個立もブロッコ經濟聯盟を必要とし」なんて言つて來た。

轉居通知を兼ねたものが七通「海外に使用して暫らく不在致居候處」といふ歸朝通知を兼ねたものもある。「早々賀狀賜はり有り難く」なんて印刷した人を喰つたものもある。あ

まり長くなるからこの位で切上げるが扱自分の賀狀はどうだつたか。

昨年は引退通知を兼ねた、今年は拙著の廣告と菅平スキー場の提灯持を兼ねたが、菅平のスキーは是非案内したいから茲にも重ねて宣傳して置く。來年も何か書くつもりだ、心境と環境のちがひによつて何を書くか知れないが、六號カルビかなんかだね。(九、一、一五)

來ル三月十五日午前十時卅分ヨリ本校内ニ於テ第二十一回卒業證書授與式舉行致候ニ付御出席相成度御案内ニ換ヘ茲ニ謹告候也
追而御臨席方ハ其旨三月八日迄ニ御通知被下度候
昭和九年二月十五日

千曲會員各位

上田蠶絲專門學校

年賀の辯

Y K 生

高島君に

年賀の公告問題は餘程潔癖な高島君の癪に觸つたと見えて、三年に亘り三回も、かなり手厳しいお小言を頂戴した。所論まことに左様御尤もで、同君の公憤は充分吾々を傾聴せしむるに足るし、又いつもながらの禮讓には最大級の謝辭を添へて敬意を表さざるを得ない。

だが然し此の問題も視角を異にするところによつておのづから別個の異論も對立しないことも無い、社會問題から見てもとつと嚴密な批評を下して良いと思ふ、兎に角此の機會に愚見を開陳し併せて時

報公告費の増加を策する次第である。

○ 高島君が此の問題で第一回の論陣を張つたのは昭和六年の二月號である、越えて七年二月には更に其の論旨を強調し、今回は三度目の提唱であるが、之等から其の要點をピックアップして見ると、賀狀の本質は決して虚禮でない頗る有義義のものであると云ふこと、特定の知友に賀狀又は其の返禮をしないことは非禮であると云ふ此の二點であると思ふ、茲で

ない、抑々賀狀の始めはいつかは知らないが今日の如く激増に次ぐに激増を以つてした歴史的発展性を具に検討したならば仍て來る幾個かの原因を發見するであらう、そして私は最も有力なる原因を公告政策の結果だと斷じたのだ、商工業者は職業意識から賀狀を其の做公告に利用するし又數も澤山に増す、被支配階級と支配階級、上下官公吏同等の賀狀も精神分析をすればどこか自己推稱をする公告的意義が無いと誰が保證しやう、兎に角公告的な風潮に乗つて無意識的に激増した數のあなどり難いことは拒むことが出来ない。

○ いづれにしても其の出発は禮であつても今日でも根本を忘れて別な意味に轉換され其の範圍や方法が限度を越し長年の慣行と錯綜していきゝか冗漫、無用、迷惑、虚禮にさへ墮して來たことは爭はれない事實であらう、舊臘二十八日のラヂオに聴くと昨年に比し十何%も多く優に居る、東朝の漫談でも比左良は往復ハガキを用いて其の枚數を誇るチタクサイ少女を誇いて現代を諷刺して居るのを見

○ 之を社會問題として一瞥して見ると、年末年始に總動員される通信關係官公吏は假りに職業的に已むないとすると、國家經濟の立場から見れば總体的な大きなムダ、私經濟の立場から見れば輕い歳末の財布の脅威、非常時と云ふ現下此等の問題に付いてもと深く内省して見る必要は無いが、簡易且つ文化的な生活を提唱する社會局、盛んに「ムダを省いて」歩く經世家等にきいて見たいものである。

○ 唯物史觀的なイデオロギーでは賀狀を如何にも甘酸っぱいセンチな社交の遊戲として之を蔑んで居る、現代のやうに禮儀から遙かに遠い存在と化つて了つては

僕自身も同感である、之を必須的な禮の交換對照とするには世間が餘りに不純すぎる、寧ろ功利的ではあるが公告として役立たせた方がずつと有利である。

○ 例へば昔、廻禮が廢止されたと同じ意味で中止されても禮儀の上からではさうひどく不都合は感じないだらう。

○ 以上は賀狀一般論であるが、獨りどんなに威張つても一向埒の明く問題では、矢張り舊習通り毎年セツセと澤山書いて禮を盡したり大いに自分を認識して貰つたり信用を害さないやうにしなければならぬ、だからせめて特定の場合だけでも賀狀を廢止しては如何、會員間の賀狀廢止は非禮に非ず」と約束すれば何でも無い、然し全然廢止するも淋しい(○)から時報へ金五拾錢也で公告をする今度は其公告を有義義ならしむるために少しスペースをあげ適宜寸感を加へて近況を報ずる、斯うすると、多分平均年會費一ヶ年分は浮くだらうし、千曲時報はもつと休養を生かすことが出来るし、年末の内省時間が與へられるしなんと一石三鳥の妙計ではないか。

○ 高島君のやうに賀狀の眞の意味を飽滿尊重し正當に考慮して居らるゝ君子に如上の雅文はあたつて居ないことを告白する、然し幾分でも意味あることを酌量願ひ度い。僕は賀狀を書く時期になると妙に憂鬱な気分になる、特定の場合でも書けば千何百枚からだからな！遂に筆を棄て、煩冠りをし正月を迎へる、そして山と積んだ賀狀を眺め忌やな心持ちで自己辯解を試る、賀狀の無い國に住みたいといつも思ふ、之が誰にも出さない辯解の軌歌でもある、あゝシンド。

京城風景

都々逸下手でもやりくり上手

待つたかえある戌の年

と都々逸(?)の文句にある通り待つたかえある戌の年にしたいものだ。朝鮮のお百姓は勿論、朝鮮屋さんも目を泣きはらし戌年を迎へた。海のかなたの非の國には盛んに空気が吹いてゐるらしい。戌年は食ひはぐれなしとかまあ本年は一寸心配なしなんて大平樂をきこんでゐたら天下太平だ。が問屋はそれは御さない。三割の出荷制限なんてものが突然舞ひ込んだ。山積せる滞貨は果して目的通り消化し得られるだらうか。次には掃立の制限問題がある。矢張り蠶絲業の非常時は解消しないらしい。或は近い内に超非常時が来るかも知れない。ほんとに恐ろしい世の中とはなりけりだ。

寒しや朝鮮温突育ち

松葉がぐれに満作り。

寒い京城で働くウリ等

たまにや財布の紐をときお居蘇氣分の抜けきらない間はまだよかつたが今日此の頃の様は零下二〇度の酷寒が毎日續き息苦しひ温突の中でつくねんと坐つてゐては全くうんざりする。氣のくさるのも無理なしと獨りできめこんでゐる。少しは謀叛心も起る。地獄の釜のふたを久し振りにあけつくり腰を据て熱燗一本。どんな無粋者でも御叱りはしまい。灘の生一本下戸の味知らずでも満更悪氣もしない。外も寒けれや懐も少しは寒し秋の風か。寒い〜で毎日暮しと云ふわけで一人の不賛成者もなく年度の會合が催された。

勤めする間に貯めたるお金

出して嬉しや今日の宴

× ×

京城在住同窓生懇親會

1、とき 一月廿四日午後六時半

2、ところ 京城本町二丁目於料亭顯た

ん

3、參會者 養蠶科五名 製絲科四名

特別科三名 計十二名(三對一)

4、會のこと

參集者の全部が京城在住者ばかり異分子は一人もなし、それに酒間幹旋者は三對一。何時もの會だつたら酒もろくに飲まずに景氣ばかり付けるんだが今度だけは内容豊富。開始は正六時半と云ふに六時には全部參集此れに依つても如何に今度の會合はみんなに待たれたかと幹事長沈氏の鼻息の荒いのも無理がない。それだけ盛會だつた事は勿論である。其のあとに豫定超過は御きまり。然しヤンパン連のみ頭割り修等の様な小者は更に痛痒を感じず。何んと宴會時間五時間半お蔭で



線香代の超過のみならず一人對お饒子七本とはどうもいもや。どんな下戸はんでも寒い京城ではそれ相當の腕にはなれるらしい。散會は十二時其の間エルボンキーサンの手をにぎつたとか等其の他不謹慎なる行爲のかどで罰金もの二三名あり即座に現金徴收の上處分する等一段と興を興へ和氣霽々裡に散會。
ひさかたに味ふ新地の酒さかな
5、寄書のこと
漫書寄書は其の道に定評ある原露在勤O氏の作。今更ながら筆者等の如き不精者が解説しては興なしと思ふので出席者の

南大門便り

柳原敏男

(一、二七暴言多謝N生)

安否は讀者各位の御想像におまかせするが何んと云つても農學校小笠原、堀兩氏原露は尾見、總督府牧野氏等初老組に至つては見るものをして必ず爆笑せしむるに充分なる秀逸なり。何れも御健在。更に若手組に至つては原露、朴、大石の諸氏道遠沈、内藤氏等こられた健在中の健在何れも一升ぶちの健飲家連中一寸此れだけの役者の揃ふ組は他にあるまいと思ふ。

「冬は寒い」なんて言ふと何言つて居やがるそんな事取て氣象台に掛合ふ筋合のものぢや無いぢやないかと聞き直る人があるかも知れぬが全く以て然り。だのに多から寒いと改めて念を押す親切な人があるから面白い。

自然の猛威に任せてそれを征服する戸外スポーツに樂しむ勇氣もなく只温突(内地にや見られぬが)ペーチカに喰ひついて火でも消へるものなら四ツ谷のお岩さんにも河の中であつた様に縮み上り「火はないのか」火を持て来いなんて當り散らす可憐い人間を見受ける。ぢや餘程温い處がお好きかと思ふに左にあらず夏は「いや暑さに當てられましてね」とか何とか言つて氷嚢を頭につけてウソ言つて居るんだから全く世話はない。

「喉元過ればあつち忘れる」かね
× ×
此處にも寒氣は追撃して來てストロアが戀しいなんて言つた處が何を言ふか北鮮地方國境警備の第一線にある警官を想へ吾同胞の生命線を守守する尊き人の姿を考へると言はれて一言もなくなくなるが零下十數度の寒さはまあ嚴寒の方かも知れぬ。

文化の香り高い京城にもドン底に蓋き襲來した寒さに喘ぐ浮浪者が相當にある近代都市が生んだ敗殘者の群——俗に土幕民と言ふのがそれだ。然し之は前世紀の殘存種族でもなけりや半島特有な土人の群でも決してない、只生活が穴居時代(似通つた穴倉生活をして居るからかく呼ばれるのであるが彼等遠はどうして猛襲して來た寒氣の中で齧いて居るか

道驛の指定した京城府外の徑斜地帯に群居して居るだけでも一萬五千餘、一月平均七人の彼等が四疊から六疊位の冷え切つた穴の中に起居し屑物拾ひ、煙草の吹殻拾ひ、ゴミ箱漁り、百貨店の近邊に網を張るお辭儀一手の繰り、グロ味たつぶりな腹取り、巫女等々日傭勞働者など高等官の生活より遙に権威があると云ふ彼等の職業?

春から十月迄の氣候のよい時は料理屋や飲食店のゴミ箱を漁つてもどうやら飢は凌げるかも知れぬが晩秋から之等の商賣(?)は上つたりやになる事必然。こうなると比較的平和だつた部落全体も人間の本能的責めたる苦痛にコソ泥、カツパヒを作りあげる。だが彼等は日常の空腹生活より留置場の方がましだと考へて居る手合であるから始末が悪い

然し生きる事に疲れた彼等ではあるが非文明人の持つ特有の頑性として信仰と迷信に凝り固り従順な者も多い。此善なる人の性を利し惜まぬ善導教育をなす特殊人派出所員の隠れた感化指導は毎日に生活更生への歩みを辿りつつある彼等の忘れてならぬ恩人であらう。
× ×
冬の風景一つ二つ……
街を歩く吾々の耳に何となく哀れさを

感じさせるボーンと言ふ餘韻のあるドラの音が傳はる事が度々ある。先づその正体たるや煤煙で眞黒くなつたばら〜に破れたつめ標の服をまとひ顔はどれもこれも故意に黒くして居るかの如き感を抱かせる程眞黒くすみをつけて居るのが音の主、而もその音こそ綿帽子をかぶせた木の棒で眞鍮の穴のあいた金ドラヒを叩く音であるのに驚かされる。二間もあらうかと思はれる竹と羽毛とをたはしが彼等の商賣道具であるのにも一驚、温突ストロブと防寒裝置につきもの、煙突掃蕩を一回金拾錢也かの手數料をとつて唯一の生活の糧として居る輩。

役所が四時に退ける。小使がストロブの掃除をするのは寒い土地の役所ぢや當り前の日課の一つだ。四時半近くになると何處からとなく二、三人のチヨンガー(獨身者の意一般に小僧ツ子の事を言つて居る)が灰拾場に集つて小使の來るのを待つて居るのを見受ける。何をするかと思へば灰の中から熱〜残りの石炭水をかけて消した煉炭の類を丹念に探し出す眞黒い大きな塊でも見出さうものならラガーマンがボールをタツクルするかの如き勢を以てとびつきのだからあきれて了ふ。冬になると唯一の慰安たる温突の燃料に一苦勞する朝鮮民衆だけに幼くしてこんな觀念を抱かせる事は否めぬ。燃料受難の朝鮮ではある。

朝鮮民衆の冬は非常に早起だ……それ程自力更生の質が擧つて居るかと思へば豈はからんや寝て居られぬのだとはハテサテ……燃料の少い處だけに薪を大切にすることは一す想像も出来ぬ朝鮮且その温突たるや熱し易く亦さめやすい而も焚口の不完全な一般家庭の温突はそれが甚しい。夕餉の支度によつて温められた温突は煉炭でも放りこんでおかん事には夜明の寒さは身にしみ、起きて飯でも炊くと温突も温まると言ふ一舉兩得な方法

を取る譯だ。何と辛い冬ではある。言ひ遅れたが温突の焚口の處に飯のかまが作つてあるのが朝鮮一般の家庭であるから。

× × ×
どえらい數量の滞貨生絲、アメリカの消費力減退と矢つぎ早の巨彈を真正面に喰つた我國蠶絲業。非常時下に於ける財界の一大難關たる生絲暴落に最近之が對策として三割出荷制限される事になつたと云ふその朝鮮に及ぼす影響も極めて重大視されて居る事は當然だ、朝鮮だけ除外例を設けて出荷制限の範圍外に置かれることは期待し難いから當然受けるものと覺悟せねばなるまい。内地に現會社を有する朝鮮蠶絲會社なるが爲に打撃は少いと云ふ見方もあるが朝鮮蠶絲家は共同販賣制により産繭を納入する義務があり加ふるに出荷制限を受けるとなれば二重の打撃である故結局朝鮮蠶絲會では春繭買収三割方減少する事を總督府當局に請願する他なしと肚をきめて居るとかの有様であるし出荷制限は農林省當局は徹底的に實施の意向あるを以て波紋の及ぶ所極めて重大である。とにかく之により輸出は若干値を保持するであらうが荷もたれは免れぬから當面對策として更に掃立制限即ち生産制限を實施すべく第二段の策あるは當然とあれば百万石計畫の總督府大方針をどう取扱ふか苦しい朝鮮の現状である (九、一、一六)

北九州千曲會總會の記

昨冬十一月四日。そう言つても九州の地ではまだ一殊に暖かだつた今年は中秋に入つたばかりと言つても差支へないぬくとさだつた。それに日もすがら美しい秋陽の照りなごんだ日。此の日、會員四〇名を算する北九州千曲會總會は、遙かに母校より來駕された倉澤理事を迎へ

てモダン福岡と謳はれる、九州隨一、華美でシックな博多の街に夕暮の薄闇にあからかな灯の入る頃、山吉料理店の木の香もまだ新しい新築の二階で開かれたのだつた。出席する者絲二回の神保氏を始めとして二十三名。が口惜しい事に當支會長で、福岡縣蠶絲課長の重任に在る藤大先輩が急性中耳炎の爲に缺席された事であつた。

先づ當日の會の模様を報告する前に、御詫びせねばならぬ事は此の會報の著しく遅延した事であるが之については一つの悲しくも亦寂しい原因によるのである。

それは既に御承知でもあらふが絲十三回の八田直次郎氏の御長逝である。氏は福岡縣蠶絲課に課長の下で勤務してゐたのであつたが總會直後頃より病魔のため幾れ去月二十日郷里に歸省されて御療養に力められてゐたにもかかはらず、天遂に齡を壽さず本月四日冬寒の疾風に誘はれとこしへの眠についたのであつた。あたら若き花一輪誠に惜みてあまりあるものである。尙書書中に見ゆる氏の筆は恐らく之が絶筆であらふ。

又氏は當支會の爲御盡力厚く此の度の總會の書類の如きも殆ど氏の下に整理されつたつたが爲に氏の一度去つてからは色々手間取り引いては會報も亦遅延したのであるから何卒その點を御諒解の上御容赦の程を希ふ次第である。

次に決議事項を御知らせすれば、(前述の如く支會長缺席のため神保氏を議長とす)

決議

- 第一號議案 本支會規則中改定ノ件
千曲會北九州支會ハ「北九州千曲會」トスルコトニ決定
- (千曲會支會準則第一條ニヨル)
- 第二號議案 本會役員改選ニ關スル件
支會長ハ藤藤四郎氏重任ニ決定
幹事 福岡縣ハ甲斐華氏轉任ノ爲神保喜久氏就任 他ハ重任ニ決定

- 第三號議案 千曲會代議員會提出議題承認ニ關スル件
(一)出席代議員旅費全額支給ニ關スル件
(二)千曲時報發行回数増加ノ件
何レモ議題提出ニ承認
- 第四號議案 母校二十五周年祝賀計畫ニ關スル件
大要千曲會本部案ニ賛成
但シ記念論文集ノ發刊(記念當日ハ)不賛成代議員會ニ提議ノコト



- 第五號議案 本支會代議員二名選舉ニ關スル件
支會長ニ一任ノコトニ決定
- 第六號議案 昭和九年度歳入歳出豫算ニ關スル件
一年三回(四月)各幹事ニ於テ會費貳圓ヲ取廻メ當支會ニ納入
右満場一致可決ス

以上の如くして會議の終了したのは七時近く。それからいよいよ親睦會になる。會議室よりやゝ隔つた大裝飾燈の輝く大廣間にぞるぞると入つて行くと、會席膳が待ちかねたやうな顔をして並んでゐる。どうやら一同の席が定まると中田氏が見えないのは残念であるが、病氣ではどうも仕方がない。まあみんなゆつくり飲んで食つて貰ひたいと言ふ様な辭であつた。遠來の倉澤理事は遙かに校長からの祝辭を陳べられたり、上田の秋の清冽な風景や思ひ出多い學校の近況等報告があり、まだ初對面の會員もあつたので御國自慢や色とりどりの郷土色を發揮して各自一わたり自己紹介を済ませる、中田氏は之にユーモアたつぷりの説明を一々加え盃を盡しつゝ御自分は悉く通行税を搾取して大に余徳を蒙る等捧腹絶倒實になどやかな情景であつた。たゞ残念なのは藤先輩の姿を見られなかつたことである

かうしてゐる間に早くも那珂川の水にみぎき上げられた博多の美妓數名がやつてくる。そして益々たけなはになつてくる一座。やがて程よい微風が一座の人の面を通りすぎる様になると、始めの間やかたさを見せられてゐた若い人たちの間に遠慮がとけて、ぼつぼつと唄が口を衝いて出る。あつちの一隅では盛んな酒戰、こつちの一隅では、まだ一本になれぬらしい半玉さんと、あぶなつかしい、東京音頭らしい踊りをおどる、と言ふよりもよるめいてゐる一團がある。こうして時過ぐる事二時間余終りに近づいた會は寄書で千秋樂、太き字あり、細筆あり最後にその上の甘茶會の岡村山氏の倉澤理事のカルカチュアで筆が擱かれる。挿入の寫眞がその當時の人々をしのばせたそれである。

最後に倉澤理事の主旨によつて千曲會萬歳の三唱でこのよき一夕の會は幕を閉ぢたのであつた。その後の各自の行動については筆者その多くを知らない。以上



(龍川會秋季總會寄書)

昭和八年度兵庫千曲會總會

は去る十一月二日神戸市菊水樓に於て開催せられたが出席者三十名を超へ頗る盛會裡に終了した。

此度は特に肥後神戸生絲検査所長の御臨席を辱し又母校より針塚校長、倉澤教授の御臨席を賜りたるは本會の光榮とする處で本會をして益々有意義たらしめるの感を深からしめた。

當日宴會に先立ち沖支會長より開會の挨拶あり後議事に入り先づ一、會計報告二、代議員會提出問題等につき審議あり續いて三、役員の改選四、代議員の選定に移りしが本件に關しては選舉の煩を省き支會長指名の詮衡委員に附する事に決定し支會長は竹内、北村、唐澤、立岩の諸氏を指名せり。委員會に於て詮衡の結果沖澤治氏支會長に當選し尙ほ幹事及び代議員は支會長指名と云ふ事に決定報告ありたるを以て沖支會長は幹事として石坂、依田、立岩、佐野の諸氏を又代議員として立岩、笑保氏を指名せられたり

確
氷
茂

訪問客がある。その多くは出荷制限を中心としての訪問客。

そんな調子だから勢ひ手落ちがあり勝ちだ。細かい處まで考へてゐる餘裕がないからだ。文書に手落ちがあると、改めて何十通といふ手紙を出さねばならぬ。前の通知の追加修正といふ類の文書だ。

漸く最近になつて東京へも雪が降ると新聞紙の天氣豫報欄は報じてゐた。で、實は僕は天氣豫報を信じて雪の顔を待つてゐたわけだが、殆んど子供のやうな心持ちで待つてゐたわけだが、雪らしい雪

午後五時を過ぎた頃であつた。

三方老松の山に囲まれ相摸の海を一眸にみはるかす此の病屋の一室にあつてひとり松籟の訪れを聞き、寄せては又も打ち返す磯の濤聲に夢を破られ、又程近い

キリスト教の信仰によつてその慰を見出され感謝に満ちた明け暮れをもたれた由「此の自分の得た信仰によつてたとへ死すとも残る愛児の行く末を守らう」と語られたとき悲しみの中にも心安らかに安

住の地に遊かれた兄の爲めにせめてもの
よるこびを感じつゝやがて棺を爐の中に
入れて固い扉を閉ざしたのである。

翌二十一日午前十一時二十一分上野發見
が枯骨は愛する遺族の方に守られつゝ、
兄がその最後迄思はれたであらう兄の愛
兒の住まはれる國、兄がその最後迄思は
れたであらう兄が故郷の山河に迎へらる
べく悲しい歸郷をなされたのである。

愛する者の骨を抱いて歸り行かれた御
令夫人の上に御老父様の上に替へ難い吾
が骨肉の父を奪はれた幼い兄が三人の御
愛兒の上にいつくしみ育て来た吾が子に
先立たれた悲しみ深からう御母上の上に
限りない將來の御多幸を祈りつゝ今歸り
来た吾が机の前に暗然として端坐し此の
一文を相してつゝしんで兄の御靈に捧げ
やうと思ふのである

ニュース

放 送 局

義しき万情の發露 且てある新聞にも報
道された事であるが本校製絲科二年の白
井洋介君は十一月の初め不圖紫斑病とい
ふ稀有の難病に冒され上田病院に入院し
た。校醫森博士も八方手を盡されたが近
代醫學も之に對して遂に施す術もなく一
時は生命も危しと見られたが、茲に此の
種の病氣に對する唯一の殘された手段は
輸血といふ事であつた。彼の血液はO型
であつたが型二〇〇乃至三〇〇ccと
いふ多量の血液は何人に求むべきか。處
が茲に世にも暖い美しい友情の花が咲い
た。同クラスの諸君は皆進んで血液の提
供者たらんと提言したのであつたが然し
皆がO型であるべき筈もない。結局橋本
嵩、高木晋、有我茂、野本信次の四人の諸
君が選ばれ自分の生命にも最も大切な血
液を瀕死の病人に一回から二回に亘つて
多量に分け與へたのである。前後六回の
輸血をしたがその度に病人の血色は紅潮
し元氣は數倍しあれ程の重病が日々快

方に向ひ滿二ヶ月後の正月八日の日退院
の運びとなり現在では病氣の以前にも増
して榮養可良の元氣一杯な体になつた。
實に持つべきものは良友である。白井君
がもしも學生でなかつたら血液の提供
者も少なく又あつたにしても數度の輸血
に到り低くみえず従つて今後は氣の毒な事
になつてしまつてゐたかもしれない。

最新式乾機の新設 三、四年前か
ら母校製絲部附庫庫東側に外側だけは出
來てゐた高さ三間、間口二間半、奥行十
間の鐵筋コンクリートの建物の中に今度
最新式の乾機が取付けられた。此の乾
機は世界にも無類のもので一晝夜の乾
繭能率は五〇〇貫。装置は大和三光式と
空氣溫度調節器とを適當にコンパイン
したもので空氣溫度調節の爲には冷凍
用の二五馬力モーター付のアンモニアコ
ンプレッサーが用ひられ、之が製氷能力
は實に一晝夜五噸といふ事である。總計
費約三萬圓と聞く。尙建物の上部は屋上
庭園になるので櫻花爛漫たる頃を想ひ製
絲部の諸君大喜びである。

雲雲古 (二月十六日より二週間)人間の
淺ましい横着さから兎角に離れ難い温い
寢床を離れて、幾度製つたか知れない零
下十何度の寒氣肌を刺す未明、星を載い
て凍土を踏鳴らし若人の熱血進る武進場
に向ふ時の心持は實に譬へん方もない快
よさである。況や素裸となりて技を練り
膽を磨く熱と努力は如何なる難局をも打
破するの概あるもので非常時國家にとつて
之位力強い頼母しい状態は他にあまりな
いと思ふ。學生諸君は柔剣道合して百
數十名。幸に關係師範は勿論校長閣下は
じめ、岡柔道部長、石倉、原田、佐藤(泰)
浦生等の諸教授その他職員數名が皆勤さ
れた中に浦生教授の御令息(尋常四年生)
が身の丈六尺五寸の赤尾劍道師範と熱心
に太刀打ちする状態等は又誠にいづらしく
も頼母しいものであつた。二十九日納會
の日は柔剣道共に紅白試合に火花を散ら
し、最後に甘く温い汁粉の御馳走が振舞
はれた。

配屬將校の更迭 母校に於て二ヶ年半許
り配屬將校として非常な御盡力をされた
歩兵中佐田田剛介氏は今度盛岡の醫學專
門學校へ轉勤された。氏の後任として今
度は歩兵少佐佐谷弘氏が一月十四日赴任さ
れた。谷少佐は遠征艦隊滿蒙の地に邦
家の爲身を挺しての奮闘をされた凱旋將
校である。それ丈に又軍政的効果も一〇
〇パーセント以上であらう事を期待され
るわけである。尙非常に立派な体格の持
主であられる。

文部省主催スキー指導講習會 日本タ
ボースの管平では一月四日から十日間菅
平の文部省高原体育研究所を根據地にス
キー術に關する講習並に實地指導の講習
があつた。本校では赤尾助教授と宮坂收
君(蠶十八)が之に出席。二人共十日間の
雪場を駆け廻つた様なドス黒さ、人間の顔
とは思はれぬ色揚げ振りである。彼等
が下山してから口にする言葉は曰く、ジ
ヤムプ、クリスチヤニヤ、テレマーク、
直滑降、二段滑走、三段滑走、スケーチ
ング、ステムボーゲン、ステムクリスチ
ヤニヤ、シェーレンクリスチヤニヤ、ジ
ヤムプター、ゲレンデシニヤプリング
ン、エル、エスチー、ステツプター、
バスカング、スローラム等々。何うです
少しはわかりますか、わからぬ人は免狀
持ちにお聞き下さい。そして菅平で習ひ
ませんか。

轉任 養蠶部講師として約三ヶ年間勤務
された金澤眞君(蠶十七)は一月がら中央
線長野の伊北農商學校教諭として榮轉さ
れる事になつた。然し不幸にして出發に
先立ち風邪を引き込み肺炎を起して市内
石塚病院に入院し療養中である。幸に今
では殆ど舊体に復したので遠からず任地
へ行かれる運びになるであらう。一日も
遅かに全快されん事を祈る。

談話會報告

昭和九年一月以降左の如く例會開催
せられたり

- 第一七回(二月一九日) 校長先生
- 一、挨拶
- 二、赤色光線の蘭質に及ぼす影響
- 三、飲食物のコロイド状態
- 第一一八回(二月廿六日)
- 一、生絲の強伸力に就て
- 二、石灰素に就て
- 第一一九回(二月二日)
- 一、空中細菌に就て
- 二、絹靴下の構造と染色法に就て
- 第一二〇回(二月九日)
- 一、卵殼に就て
- 二、超音波の應用

千曲會日誌

十二月二十六日 故竹内清故一之瀬貞嗣
右兩氏の御遺族へ有志形慰金十九圓宛
贈呈せり

十二月二十八日 校友會雜誌第二十六號
一部各支會長へ發送せり

一月十二日 故片倉兼太郎翁の御葬儀郷
里諏訪郡川岸村に於て執行せらるる本會
を代表して林理事會葬せり

一月二十日 農林省蠶絲局蠶業課に勤務
せられし小口一枝氏(蠶九)御長逝に付
直に弔電を發し哀悼の意を表せり

一月二十五日 故小口一枝氏の御葬儀郷
里山形縣南陽郡南原村に於て執行せ

らる當日電報を以て英靈に對し申意を
表せり

入會金納入者

完納者

山本卯一(蠶十八) 古川正喜(蠶十八)
笠原四郎(蠶十八) 尾崎宗敬(蠶十八)
永井眞吉(蠶十八) 尾崎利雄(蠶十八)
坂口正信(蠶十八) 上杉慶次郎(蠶十八)
千吉良幸(蠶十九) 勸使河原實之助(蠶十九)

岡本正男(蠶十九) 塚田庸男(蠶十九)

吉賀哲夫(蠶十八) 徳永忠祥(蠶十八)

小關悦郎(蠶十九) 小口伊祐(蠶十九)

黒木藤雄(蠶十九) 林 龜一(蠶十九)

井上熊保(蠶十九) 西山 省(蠶十九)

宮本文四郎(蠶二十) 武井一郎(紡十)

山名亭四郎(紡十一)

金五圓也

細川俊男(蠶十八) 千村敏三(蠶十八)

竹内直人(蠶十八) 三瓶常四郎(蠶十八)

藤井四郎(蠶十八) 太田 元(蠶十八)

赤羽是壽(蠶十九) 町野 巖(蠶十九)

辻本 勇(蠶十九) 倉澤文夫(蠶十九)

北澤延榮(蠶十九) 杉浦卓三(蠶二十)

遠山正人(蠶二十) 濱井成一(蠶二十)

小林 修(蠶二十) 都筑清治(蠶二十)

原 治夫(蠶二十) 寺島一万太郎(蠶二十)

根津 健(蠶十八) 野田太郎(蠶十八)

飯沼 榮(蠶十八) 鳥羽 誠(蠶十九)

井上泰利(蠶十九) 宮原秀人(蠶十九)

平山俊夫(蠶十九) 牧 道男(蠶二十)

水上精一(蠶二十) 後明武男(蠶二十)

平野正夫(蠶二十) 井田英夫(蠶二十)

奏 彰(蠶二十) 喜多尾猪門(蠶二十)

依田 實(蠶二十) 篠原林助(蠶二十)

鈴木 力(紡十二)

終身會費納入者

完納者

高島秀男(蠶二)

須田圭二(蠶二)

小川敬之助(蠶二)

内金貳拾五圓也 内金八圓也

工藤見吉(蠶十七) 伊藤勢龜(蠶四)

内金四圓也

北澤 茂(蠶二)

未納會費納入者

金拾六圓也 金拾貳圓也

北澤 茂(蠶二) 伊藤勢龜(蠶四)

金六圓也

今井又藏(蠶一)

金五圓也

藤勝四郎(蠶一) 廣瀬清四郎(蠶一)

波多野千里(蠶一) 本間直人(蠶一)

岩本市郎(蠶一) 奥田達雄(蠶一)

菅澤隆三(蠶一) 大名 昇(蠶一)

濱井壽夫(蠶二) 堀本省一(蠶二)

磯野良知(蠶二) 須田今三(蠶三)

小林禮三(蠶三) 志田傳次郎(蠶三)

工藤見吉(蠶十七) 伊藤 龍(蠶一)

森淳太郎(蠶一) 一志藏人(蠶一)

田口敏夫(蠶一) 甲斐 肇(蠶二)

兒玉忠雄(蠶二) 永井 榮(蠶二)

向山紀元治(蠶二) 飯島 直(蠶三)

上野榮仁(蠶三)

金四圓也

松井清三(蠶一) 佐々木峰二(蠶二)

金參圓也

竹内眞喜雄(蠶二) 細川三郎(蠶二)

金貳圓也

朝長勝治(蠶二) 芝 荒雄(蠶三)

林部源三郎(蠶一)

昭和八年度通會費納入者

(但し○印は外に蠶絲學雜誌代入り)

○平澤 勝(蠶二) 中田太郎(蠶七)

○仲内靜(蠶十二) 淺野清志(蠶十五)

仁尾幾則(蠶二十) 小笠原振一(蠶四)

長見公裕(蠶四) 角替勉夫(蠶十五)

正本章三(蠶十六) 大石唯男(蠶十九)

○林 清一(蠶十九) 奏 彰(蠶二十)

室岡茂克(蠶二十) 山名亭四郎(紡十一)

蠶絲學雜誌代納入者

高島秀雄(蠶二) 田中福雄(蠶二)

三輪 輔(蠶一) 坂卷文彦(蠶二)

竹内眞喜雄(蠶二) 高尾茂次(蠶二)

金參圓

工藤見吉(蠶十七)

正 誤

一月號年賀廣告中左の如き誤
あり訂正す

正 上田蠶絲專門學校 竹下文英

誤 上田蠶絲專門學校 竹内文英

正 富崎高等農林學校 中島 茂

誤 鹿兒島高等農林學校 中島 茂

誤 鹿兒島高等農林學校 中島 茂

内容 一部 (二月號)

△應急對策としての出荷制限の考察

△出荷制限を繞る本年絲價の前途觀

△蠶絲業の更生は徹底的大刷新を要す

△蠶絲業の更生は根本的對策實現に在る

△昭和八年度の回顧と將來の期待

△世界經濟界の情勢と生絲の地歩

△根本對策の實現が急務

△副蠶絲價の統制

△蠶絲機の革命期來る

△輸出生絲出荷制限實施要項

△本邦人絹織物の需給情勢

△絹及人絹織物の需給情勢

△日印會商所感

△年頭所感

△蠶絲業の根本的發展策

△業界種々相

△海外ニュース

△蠶絲界ニュース

△人絹界ニュース

△生絲業概觀

△内外重要記事

△統計表

△吾輩は人絹である

△扇港ゴシップ

△横濱だより

(定價一部三五錢、一ヶ年四圓)

横濱市中區露山一三

シルク時報社

振替東京八〇九五四

編輯室から

昨年十二月號では腹積の件に付いて御叱
りを受けたが其の責任は勿論編輯者にあ
るのですが原稿の文字の書き方が餘りに
亂雑である爲め遂に間違つた例も少くあ
りません。就ては原稿は草書は用ゐず
成るべく丁寧にお書き下さる事を希望
いたします。

原稿を郵送せらるゝ場合に通信文を一
緒にし澤山の切手を貼付せらるゝ方もあ
りますがこれは開封とし「千曲時報原稿
在中」として二錢切手を御貼り下されば
餘程長文の原稿でも大丈夫です。即ち第
四郵便にてお願ひ申します。但し其の
場合には通信文は別に端書にてお認め下
さい。決して原稿と同封なされない様御
願ひします。

昭和七年度千曲會通會費計收支決算書
は紙面の都合上來月號に載せる事にいた
しました。

弔慰金募集廣告

本會々員

小口一枝氏 (蠶九)

向山紀元治氏 (蠶二)

豫て御病氣の處養生不相

叶小口氏は一月十九日向

山氏は二月四日遂に御逝

去被致候間此段本紙上を

以て及御通知候也

追而有志弔慰金は來る三月末

日迄に取組め遺族へ贈呈可致

候間便宜上振替口座東京四三

三四一番へ小口氏又は向山氏

弔慰金の旨御明記の上御拂込

被下候

昭和九年二月十五日

上田蠶絲專門學校

千 曲 會